

「信濃川水系河川整備計画骨子」に対する学識者から頂いたご意見

平成25年4月
国土交通省 北陸地方整備局

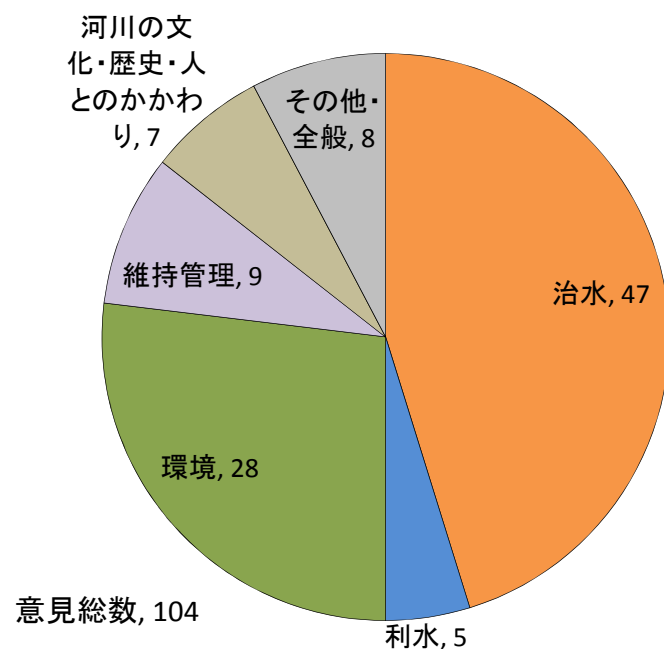
■意見の聴取について

平成24年9月に開催した信濃川水系学識者会議(第3回中流部会、第3回上流部会、第3回下流部会)及び全体調整会議委員へのヒアリングにおいて、意見を頂きました。

- ・信濃川水系学識者会議(第3回中流部会) 平成24年9月11日 長岡市消防防災本部
- ・信濃川水系学識者会議(第3回上流部会) 平成24年9月18日 長野市生涯学習センター
- ・信濃川水系学識者会議(第3回下流部会) 平成24年9月18日 コープシティ花園
- ・信濃川水系全体調整会議委員への個別ヒアリング 平成24年9月28日～10月30日

■学識者から頂いたご意見の概要

学識者から頂いた意見の内訳及び主な意見については、下記のとおりです。



学識者から頂いた意見数の内訳

■ 頂いたご意見の概要

頂いた主なご意見の概要は、下記のとおりです。

治水に関する主なご意見
流域全体の治水安全度向上のためにも大河津分水路の整備をしっかりと進めてもらいたい。
既設ダムは、過去の洪水でも河川の水位低下に効果があったことから、今後も有効活用してほしい。
計画高水位を超える規模の洪水に対する被害の最小化についても取り組んでほしい。

利水に関する主なご意見
温暖化等の気候変動による異常渇水の可能性を踏まえ、合理的な水利用をすすめ、渇水対策を行ってほしい。
小水力発電の水利用について、規制の柔軟な適用や緩和について取り組んでほしい。

環境に関する主なご意見
環境の記述については、地域の特徴が分かるように記載してほしい。
魚類の移動環境を改善するための水域の連続性確保や多自然川づくりを推進してほしい。
樹木伐採については、自然環境への影響に配慮するとともに、学識者や関係団体との調整を行ったうえで実施してほしい。

維持管理に関する主なご意見

サイクル型管理については、計画策定後のフォローアップが重要であり、学識者も含めて話し合う仕組みをつくってほしい。

地域住民が参加しやすいよう、ボランティア・サポート・プログラム等を今後も推進してほしい。

水難事故防止や不法投棄対策等では、市民の監視が重要であり、自治体や地域コミュニティとの連携を推進してほしい。

河川の文化・歴史、人とのかかわりに関する主なご意見

河川文化の保全・再生・創造に取り組むとともに、河川整備にあたっては、伝統工法の活用も進めてほしい。

河川の歴史を知ることによって災害に対する意識が高まると考えられるため、河川が持つ教育価値、文化価値等を活かしながら整備を進めてほしい。

信濃川大河津資料館のさらなる活用も含め、信濃川の文化・歴史を継承する施策を実施してほしい。

番号	学識者から頂いたご意見	回答	原案の該当頁
治水			
1	●本整備計画は国管理区間を対象とした計画であるが、支川も含め、県管理区間との関係について触れているか。	本計画は大臣管理区間を対象としていますが、整備にあたって関係する河川管理者と連携を図りつつ水系全体として段階的かつ着実に治水安全度の向上を図ります。	P58
2	●東日本大震災では計画規模以上の災害が襲来し「想定外」という言葉が多用された。本整備計画でも計画高水位を超える洪水を踏まえた危機管理とあるが、目標を超えた事態が発生した場合にも対応できるよう留意してもらいたい。	計画規模を上回る洪水や整備途上の段階で被害が発生した場合においても被害を最小限に抑えることが重要です。このため、危機管理体制の強化・充実について、原案に記載しました。	P60
3	●戦後最大規模の洪水を処理すると記載があるが、これを見ると住民は安心する。超過洪水を想定してその上で住民にリスクを理解してもらい行動してもらふ旨を記載すべきである。平成23年の洪水では、平成16年洪水よりも規模が大きかったが、非常に意識が高かったということもあって、ソフト的・社会的対応がしっかりと出来ており、非常に威力を発揮した。リスクマネジメントという視点をもう少し考えると良い。		
4	●戦後最大という表現について、私たちは計画策定時の戦後最大と理解するが、住民の中には計画策定時という概念が無く戦後最大と理解するため、戦後最大を更新する度に説明に苦慮している事例がある。戦後最大という言葉が一人歩きしないように気をつけた方が良い。		
5	●大河津可動堰下流の川幅が狭く拡幅の必要性について聞いているが、寺泊地区の先に分水路から出てきた土砂が溜まってできたとされる、荒れて環境が悪い土地がある。今後、拡幅を行った場合に、再び土砂が同じ地区に溜まるのではないかと懸念しており、土砂堆積のイメージを持っていたら教えていただきたい。	大河津分水路の改修にあたっては、今後も調査・検討を行い、土砂堆積等の課題がある場合は、必要に応じて対策を実施します。	
6	●平成23年7月洪水では長岡市街地を流れる柿川において内水被害が発生した。信濃川本川は市街地を流れる都市河川を受け入れる非常に頼りになる河川であるため、内水対策など都市河川との関係性について整理すると市民にとって関心のあるものになると思う。	信濃川本川は、支川からの流量の受け入れ先としても重要な役割があります。このため、本川の水位を低下させる対策を実施したうえで、内水被害が発生する恐れのある地域へ排水ポンプ車の支援の拡充や関係機関との連携・調整を行う旨、原案に記載しました。	P71
7	●中小河川の本川である信濃川の改修は是非進めて頂きたい。		

番号	学識者から頂いたご意見	回答	原案の該当頁
8	●他地域で昔の堤防がパイピングを起こして堤防が崩れた事案があったが、信濃川の既存堤防でも手当しなければいけない箇所はあるのか。	浸透に対する堤防詳細点検結果を踏まえ、安全性が確保されない堤防に対して浸透対策を実施します。堤防の浸透対策が必要な箇所については、原案に記載しました。	P72～75
9	●水防、避難に関する適切な情報提供等とあるが、河川改修は時間を要し、いつ災害がくるとも限らないため、もう少し水防、避難などの減災に関する事項が整備計画の中で前面に出てよいのではないか。	今後もインターネットや、携帯電話を通じた河川水位等のリアルタイム情報を提供するとともに関係自治体が作成する洪水ハザードマップの作成支援や、まるごとまちごとハザードマップの整備を連携して進めます。また、子供やお年寄り、外国人の方などへも分かりやすい情報提供とすること、メディアや既存の地域ネットワーク、防災メールの活用、防災教育について、原案に記載しました。	P80
利水			
10	●水利用で多くを占めるのはかんがい用水の取水だと思われるが、合理的・効率的な取水が可能であれば随分と渇水対策になるとと思われる。	関係機関及び水利使用者との連携が重要であることから、健全な水循環系の構築について原案に追記しました。	P82
環境			
11	●一般的に魚類が繁殖する場所、育つ場所については支川・細流に多く見られるため、支川等についても記載することはできないか。子供たちと川の係わりについては身近な川である支川や細流が主であるため、そこから本川に目が向くことになる。	河川だけでなく、支川や水田、湖沼・潟までの水域の連続性の確保について原案に追記しました。	P43
12	●河川空間の適正な利用と保全の観点から河川敷内農地に関する記述がないとまずい。水田、ハス田、それから、さまざまな農地、非常にバラエティに富んでいることが信濃川の特徴となっており、ほかの植生と相まって多様な生物、多様性の場にもなっている。	河川整備にあたっては、周辺の自然環境や流域の歴史・文化・風土や河岸段丘や農村、田園風景の広がる特徴的な河川景観に配慮する旨、原案に記載しました。	P46
13	●河川環境に関連して鳥獣問題がある。例えば数年前も長岡市内をイノシシがかけ回った例があるが、他地域ではイノシシやクマが河川を通じて河畔林に隠れては山のほうから街のほうに入るのではないかという調査結果もある。 河川が多様な生物が棲む場所であって欲しいが、河川環境の保全及び生物の生息・生育・繁殖地の保全については、河川が大型哺乳類の鳥獣被害の経路の一つとなっている視点も含めて欲しい。	ご指摘の鳥獣問題は河川管理者としても重要な課題として認識しております。 関係機関と連携を密にして課題解決に努めてまいります。	

番号	学識者から頂いたご意見	回答	原案の該当頁
14	●信濃川中流部は昔から花火だとか、レクリエーション活動で市民生活に密接に関わっており、レクリエーションや観光に寄与する活用を図ることも必要ではないか。また、まちづくりとも密接に関連してくるため、まちづくりとの連携といった視点について検討頂きたい。	関係自治体と連携し、まちづくりと一体となった水辺空間の整備を推進します。また、新たな交流の場、環境学習の場、潤いとやすらぎの場、誰でも安心して河川に親しめる場として河川空間を整備する際には、地域の特性を踏まえつつ、魅力あるものとなるよう配慮します。これらについて原案に記載しました。	P87
骨子全体に係るご意見			
15	●信濃川水系整備計画の目標として「北アルプスからの清流を湛え、豊穡な礎をなす悠久なる大河信濃川を守り、活かし、未来に伝える川づくり」とあるが、「豊穡な礎をなす」という部分について、例えば「豊穡な大地の礎をなす」とあれば、意味が通るように思える。	ご指摘のように文章を改めました。	P58
16	●河川整備計画では治水・利水・環境について目的があり、バランスよく推進することが一番理想的である。しかし予算の制約や、最近の災害・気象条件の変化等もある中で、優先順位付けや選択と集中を図る必要が現実的にある。その中で計画をつくるにあたり、重点的に事業を推進する箇所など考え方はあるか。	河川整備計画では概ね30年間で整備目標を達成するための必要最低限の整備内容が位置づけられており、当然その中で優先的に実施すべき事業は存在します。水系全体でのバランスのとれた整備を実施するため、整備計画策定後に優先順位や重点箇所について具体的に検討していきます。	
17	●川というのは必ずしも災害を受けるだけではなく、私たちは恵みを受けているので、総合的に本来の川のあり方を探るべきである。	今後も河川の歴史、文化を伝承し、防災文化の育成に向けた取り組みを支援していくとともに、「日本一の大河信濃川」の魅力、怖さや生活と信濃川の関わりなどについて、理解を深められるような取り組みを行います。これらについて原案に記載しました。	P98